



THE Y'S MEN'S CLUB OF TOKOROZAWA

2026年6月 通巻 438号

今月のテーマ YMCA サポート・評価・次年度計画



会長	小林 勉	クラブ会長主題 「人、出会い、交流」
副会長	岡部八千代	国際会長 A・シヤナヴァスカーン (インド) 「より良い世界のために、共に」
	澁谷弘祐	アジア太平洋会長 ジョウン・ウォン (香港) 「大きなインパクトを起こそう」
書記	宮地輝子	東日本区理事 山下 真 (十勝) 「ワイズらしさ再発見」
会計	金本伸二郎	関東東部部長 鈴木雅博 (江東) 「CHANGE (変革) 若者から発信！」

今月の聖句

あなたがたの光を人々の前に輝かせなさい。
人々が、あなたがたの立派な行いを見て、
天におられるあなたがたの父を崇めるようになるためである。

マタイの福音書5章16節

6月 例会

日時：令和8年6月13日(土)

18:00 ~ 20:00

会場：YMCA 所沢センター

司会 岡部副会長

小林会長

1. 開会点鐘

2. ワイズソング

3. ワイズの信条

4. 聖書祈り

澁谷副会長

5. 1年間の総括

事業報告・会計報告・お茶会計報告

6. YMCA 報告

太田総主事

7. ワイズ報告

小林会長

8. 誕生・結婚記念

9. 閉会点鐘

小林会長

参加・不参加またお弁当の要・不要を

6/8(月)までに所沢クラブLINE、又は

TEL(宮地 090-8302-5495)でお知らせください。

あなたの大切な「オンリーワン」をお誘いください

大澤和子

ワイズメンズクラブが地域の老人会やサークルと最も異なる点、それは私たちが「YMCAの青少年の応援団」であるということです。近年、その活動はYMCAの枠を超え、世界中・日本中の青少年を支えるコミュニティへと広がっています。私たち「ちょっとだけ元気な人生の先輩」の役割は、若者たちの重荷になることではありません。「4人で1人の若者を支えよう」という志を持ち、未来を背負う若者が自分らしく輝く姿を応援することに、共に喜びを感じる仲間を募ることで。

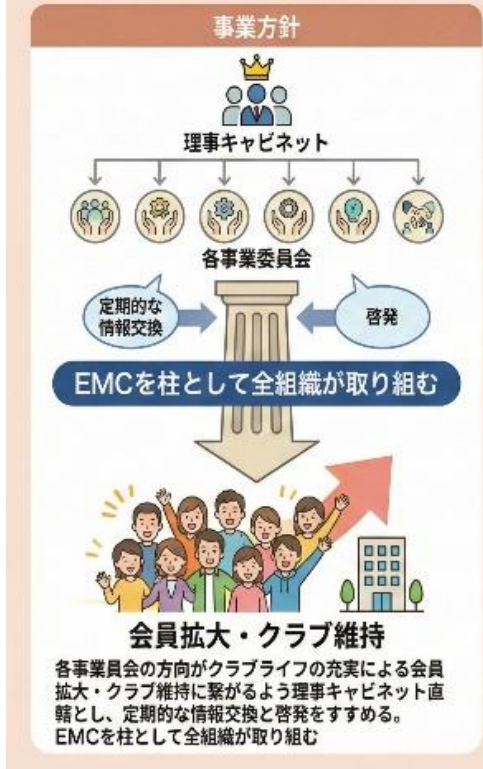
「会員増強は目的ではなく、結果」にすぎません。大切なのは、あなたにとって一番大切な人と、有意義で楽しいワイズライフを共有することです。自他クラブの例会、部や区の大会、YMCAのイベントへ、大切な人を「たった一人」お誘いしてみてください。あなたが心から楽しみ、その姿を見た大切な人も一緒に楽しむことができれば、ワイズの輪は自然と広がっていくのではないのでしょうか。ぜひ、あなたの「オンリーワン」に声をかけてみてください。

力不足の身ではございますが、来期も引き続き、東日本区の会員増強主任を拝命いたしました。特効薬のような奇策はありませんが、山下理事の方針のもとキャビネットの皆さんと歴代の理事や主任・主査の皆様が知恵を絞られた素晴らしいアイディアの数々を、イラスト(※別記)にまとめてみました。日々の活動のヒントとして、ぜひご活用ください。



アイディアのイラスト次に

事業方針：クラブライフ充実による会員拡大・クラブ維持へ



① YMCAの事業に積極的に参加して楽しむ

チャリティーラン・フェスティバル・ワークキャンプ

② ワイズの活動に誘って一緒に楽しむ

活動内容

③ 活動内容

① ユースエンパワーメント応援隊募集

ユースの活動の反省会や報告会に、家族や友人を招待する。(応募要項に明記)

② CS,Yサ活動の活性化

講演会 映画会 音楽会 ○○散歩

クラブ会員と友人知人のボランティアと一緒に取り組む
講演会・映画会・音楽会・○○散歩など

④ 35歳までのユース区費の減免の検討とあわせて部・クラブでの支えについて検討。

④ 部や区、クラブの垣根を超えた交流に友人知人を誘って一緒に楽しむ。

例会報告

小林恵子

アフガニスタンで人道支援と用水路建設に命を懸けた医師 中村哲先生の生涯を追ったドキュメンタリー映画【荒野に希望の灯をともし】という上映会を埼玉所沢クラブの最大イベントとして5月9日埼玉 YMCA で開かれました。67名ものたくさんの方々にご参加いただきました。



アフガニスタンを大干ばつが襲いたくさんの子供たちが泥水を飲んで命を落としていくことに、医療だけでは人々を救えないと、先生自ら重機を運転し専門外の土木工学を独学で学び、地元の人々と協力しながら用水路建設に果敢に挑みました。

いろいろなトラブルが起こる中、決してあきらめない不屈の精神と執念が実を結び、かつての死の大地を緑の農地に生まれ変わらせ、人々の命を救いました。先生の不

条理に対する復讐という言葉が心にささります。

昨今 世界の至る所で戦争によって人々が亡くなり、また国内でも暗く悲しい事件が頻発しています。そんな中武器を持たず文化や宗教を否定せず地元に関わり込んで、皆と協力しながら偉大な業績を達成された。これこそが平和への歩み方なのだと感じました。私ごとではありますが、70歳を超え、これからの人生で何ができるのか考えます。中村哲先生のような偉業はどうしてできるはずもありませんが、周りの人に優しく丁寧な生き方を心がけていたらと強く思いました。

YMCA 報告

太田聡 総主事

■100周年の未来を見据えた歩み

埼玉 YMCA の機関紙『さいわい』最新号が発行されました。今号では2026年度の年間聖句や事業方針、各事業責任者からの報告をまとめています。現在54年目を迎える埼玉YMCAですが、全国にある100年を超えるYMCAのように、私たちも「地域にあって本当によかった」と思われる場所であり続け、100周年を迎えられる基盤を作りたいと願っています。その一歩として、これからの3年間を「リジェネレーション・プラン（中期計画）」と決めました。中面にはビジョンをイラストで表現しておりますので、ぜひご覧いただきご意見をお寄せください。

■AIの学びと時代の転換期における使命

5月は国の補助金を活用し、事業責任者を対象とした「AIの学び（研修）」を実施しました。私自身、昨年7月から毎朝AIのコミュニティに参加していますが、AIは得体の知れない怖いものではなく、業務を支える「相棒」や

「思考の壁打ち相手」として非常に有益だと実感しています。世間ではAIに関するネガティブな報道もあり、安易な利用を危惧する声もあります。しかし、テクノロジーが急速に進化する今、私たちはその変化を拒むのではなく、まず自ら学び理解することが重要です。自分で考える力や対面での体験を大切にしつつも、最先端の技術を捉える必要があります。1844年、産業革命の激動の中で誕生したYMCAは、常に時代の要請に応じてきました。この大きな転換期において変化に適応し、その上で今の世の中へ必要な提案を行っていきたくと考えています。今後はワイズメンズクラブの皆さまとも、こうした学びを共有できれば幸いです。今月もどうぞよろしくお願いたします。

第2回関東東部評議会

小林 ペン

5月30日に東陽町YMCAホールにおいて関東東部第2回評議会・次期クラブ役員研修会開かれましたので概要を報告します。

評議会参加者は27名、委任状10名

第2回評議会第1部は、山本剛史郎国際交流事業主任(川越クラブ)の開会点鐘・開会宣言・開会あいさつに続いて年次活動報告がありました。概要は 1) 国際交流として2月インドYMCA訪問。川越ワイズのユース中心としたグループによる企画で、7名の学生が同行しインドの学校訪問やインドの学生との交流、ワイズ宅でのホームステイ、結婚式へ出席など貴重な時間を体験したようです。

東部を構成する8クラブから報告がありました。

当クラブも通常の活動とともに「狭山茶・茶羊羹」の販売に力を入れていることを報告しました。又cs資金を受けた映画会ではペシャワール会への募金が18,000円あったことを伝えました。



続いて15時から「次期クラブ役員研修会」が行われました。研修会参加者は26名、鈴木雅博部長の開会点鐘で始まり、わが所沢クラブの大澤さんも会員増強事業の主査として、事業主題「YMCAとともに楽しむワイズ活動」を発表しました。

他に国際交流事業の山本剛史郎主任(川越)から事業主題「若者に異なる世界を見せたい」、ワイズメネット事業の利根川恵子主査(川越)から事業主題「ワイズメネット事業の組織化を目指して」を掲げた挨拶と方針の提案を受けました。(詳細は割愛)

集合写真撮影の後懇親会会場へ移動。懇親会には22名が出席し、たっぷり時間を執った向かいの席の方たちとの談笑が19時まで行われました。

川越クラブ例会卓話

宮地輝子

5月23日(土)ウエスタ川越で開催された川越クラブ主催の例会に小林会長・大澤さん・宮地の3名で参加しました。

滑川浩子先生が「地域に根差した幼児教育の創出」と「



遊びながらまなびへ、そして世界へ」というテーマで講演されました。

川越クラブの吉野会長は仕事で行かれるインドでワイズメンズクラブの方と知り合いになったところ、その方が滑川家にホームステイして語学研修に来ていたことから、滑川先生との出会いになったとのこと。

滑川先生は高校時代にECCクラブでシェクスピアのベニスの商人の弁護士役をなさったそうで、そこで英語の楽しさを知り、話せる英語を学び、英語は人と人をつなぐのだと確信し、貿易会社勤務の時も大いに英語は役立ち、その後、ラボ・パーティーのチューター・子供英会話教室の主宰・東京カルチャースクール・埼玉県ワンナイトステイ事業の受け入れでは21か国42名を受け入れて、英語によって幼児教室の創出から国際交流までやってこられたとのこと。英会話教室ではあちこちに教室ができ、車で行き来し、NHK文化センターでは大人の講座を受持ち、英語教育に没頭されてこられました。その先生は今年、米寿を迎えられ、趣味で長く続けている民謡の踊りを仲間の方と披露されました。お姿は澁刺としてまばゆいばかりでした。

『May I help you?』は魔法の言葉だといいます。池袋で、不安そうな女性に一声かけたことから貿易会社社長夫人と国境を越えて友情が始まり、その夫人と人と人とのつながりのすばらしさを再確認されたそうで

す。

【英語は私にとって、人生を変える杖であり、世界をつなぐ「光」でした】と結ばれました。

川越クラブの山本さんが声をかけたことがきっかけで、この講演会に来られた外国人が数名いました。その方たちに滑川先生の話や川越クラブの利根川恵子さんが同時通訳をされていたのも講演者も、出席者も、同時に国際交流の姿が見える活気溢れる講演会でした。



こころ動く、二か月の整理箱

須田聖子

次々と見つかる写真、姪達、その子供達のにこやかな表情、舅・姑の日々見慣れたしっかりと前を見つめる視線、私達の子共達の控えめな笑顔、私はいつもと変わらぬ曖昧な笑顔……この二か月続けている舅・姑・亡き夫の遺品整理の中で古い写真の数々を手にとって、暫し私の動きは止まってしまいます。

三人が亡くなった直後それなりに取り組んだつもりでいましたが、時間が出来、遺品の中の三人が残した書き物、衣類等を丁寧に手に取ってみると、何と雑に取り扱っていたか、と自分自身にあきれ果てています。

昭和の時代の嫁としての日々の苦勞、鍛えられた人との関係、時には多人数での賑やかな集い等が古い写真を見ることで思い出されます。

このような感慨にふける時間に痛感するのは、自力でできる今だからこそ私自身の今迄を見直し判断し、整理しなければ、ということです。そして同時に痛感するのは、「終活は八十代になってからでは遅い、五十代から始めることです…」という、もう数か月以上前に読んだ男性の方がお書きになった雑誌の中の強烈な文章です。

この二か月、様々な思いを抱えながら、豊かな経験をさせてくれた出来事、様々な状況で触れ合った人々…それらが全て自分を鍛えてくれたこと、今それら全てを素直に認め、感謝できる時間を与えられていることに、心から有り難いと痛感する日々を過ごしています。

今後の行事予定

宮地輝子

6月6(土)～7日(日)第29回東日本区大会

大澤・宮地・八重樫さん参加予定

6月13日(土) 18:00 6月例会

1年間の総括

例会報告 澁谷弘祐

7月1日(水) ブリテン7月号発行

一面 太田総主事

7月11日(土) 7月例会キックオフ例会

例会報告 大澤和子

新茶の緑で心も体も深呼吸!

新茶	90g	1,000円
和紅茶		1,000円
羊かん	1袋	500円
クッキー		150円

5月例会(中村哲氏の映画会)

所沢クラブ	9名
埼玉クラブ	1名
東京サンライズクラブ	2名
一般	55名
計	67名